

群 教 セ	E03 - 03
	平17.227集

集団として、個人として 行動する力を高める学級経営の工夫

— 学校行事に取り組む

「好きだから3-2プロジェクト」の活動を通して—

特別研修員 山田 美穂 (藤岡市立西中学校)

《研究の概要》

本研究は、中学校3年生を対象に、学校行事に取り組む「好きだから3-2プロジェクト」の活動を通して、集団として、個人として行動する力を高める学級経営の工夫を実践的に研究したものである。具体的には、行事の目標に向けて学級集団としてどうあるべきか、学級または自分たちには何ができるかなどのお話合いをもとに、自分たちで考えたことを①企画、②実施、③振り返りをし、次の行事に生かしていくという活動を行った。

キーワード 【学級経営 中学校 学校行事 学級集団 学級活動 グループ活動】

I 主題設定の理由

本学級の生徒（中学3年生、男子18名、女子18名、計36名）は、素直で落ち着いた生活を送っている。しかし、自分の意見を周囲にしっかり伝えることのできる生徒は少ない。4月、学級目標を決める際に「卒業式の日、何て言って教室を出たい？」という質問をしたところ「3-2でよかった」「ずっと友達」「ありがとう」「あなたがいてよかった」など、友達とかかわり合いながら生活したいという希望をもっていることが分かった。

「このクラスでよかった」「ありがとう」と生徒が感じるのは、クラスで話し合ったり協力したりしながら、クラスとしてまとまって何かができるとき、クラスの中に自分の力を発揮できる場面や場所を見つけてその頑張りを周りの友達が認めてくれたとき、また、クラスみんなが自分のために一緒に悩んだり喜んだりしてくれたときなどではないかと考えた。

生徒が目的に向けた柔軟な発想で、自分たちで考え、行動することのできる行事への取組において、学級として何を目指しているのか、個人として何ができるのかを具体的に考えることにより、自分たちなりの思いをもって実行に移すことができるのではないかと、そして、友達を認め合い、喜びをみんなで感じられるような振り返りを繰り返すことができれば、一人では得られない大きな満足感や充実感が得られ、集団として、また個

人として、さらに行動する力が高まるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

球技大会、マラソン大会、合唱コンクールに向けた「好きだから3-2プロジェクト」の①企画段階において、学級集団としての準備や参加の在り方と、個人の努力目標をまとめる。
②実施段階において、学級への呼びかけや、グループごとの取組とその見直しを行う。
③振り返り段階において、友達のよさを認め仲間と喜びを共有することのすばらしさを感じる。
この①～③の指導を工夫すれば、自分たちで考えて行動するよさに気付き、集団として、個人として行動する力が高まることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 「球技大会」に向けて学級の団結力を高めるために、企画段階に重点を置いた「好きだから3-2プロジェクト1」を行うことにより、生徒一人一人が集団で行動することのよさに気付くであろう。
- 2 「マラソン大会に」に向けて集団の力を個人の活動に生かしていくために、実施段階に重点を

置いた「好きだから3-2プロジェクト2」を行うことにより、集団の一員としての自分を意識すると共に、所属する安心感や集団から得る活力の大きさを感ずることが出来るであろう。

3 「合唱コンクール」に向けて、3-2の最高の合唱を創るために、実施や振り返りの段階に重点を置いた「好きだから3-2プロジェクト3」を行うことにより、一人一人がクラスという集団に働きかけることの大切さや集団として行動できたときの充実感を感ずるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

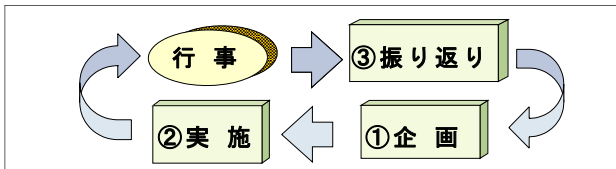
(1) 学級における「集団として、個人として行動する力」とは

学級における「集団として行動する力」とは、目標や課題に対して、学級としての意思表示に向けた話し合いや解決に向けた自発的で自治的な集団活動をする力であると考えた。「個人として行動する力」とは、学級の共通の問題に対して、個々の生徒が自己の在り方や問題への対応策を集団で話し合い、解決するために行う一人一人の自主的に活動する力であると考えた。集団と個人を意識することで、学級の目指す方向や自分たちの思いが具体的になり、充実感を感ずることが出来る。個人の成長を集団の成長につなげたいと考えた。

(2) 「好きだから3-2プロジェクト」とは

学校行事に向けて、学級としてどんなことが必要か、学級または自分たちには何が出来るかなど話し合いをもとに、自分たちで考えたことを①企画・提案、②実施、調整・修正、③振り返る活動である(資料1及び2)。学級活動や朝の会、帰りの会、その他の時間において実施する。

資料1 「好きだから3-2プロジェクト」の流れ



①企画段階では、学級としての目標を話し合い、それを達成するための役割分担や学級の約束事を決める。それをもとに個人の努力目標を決める。

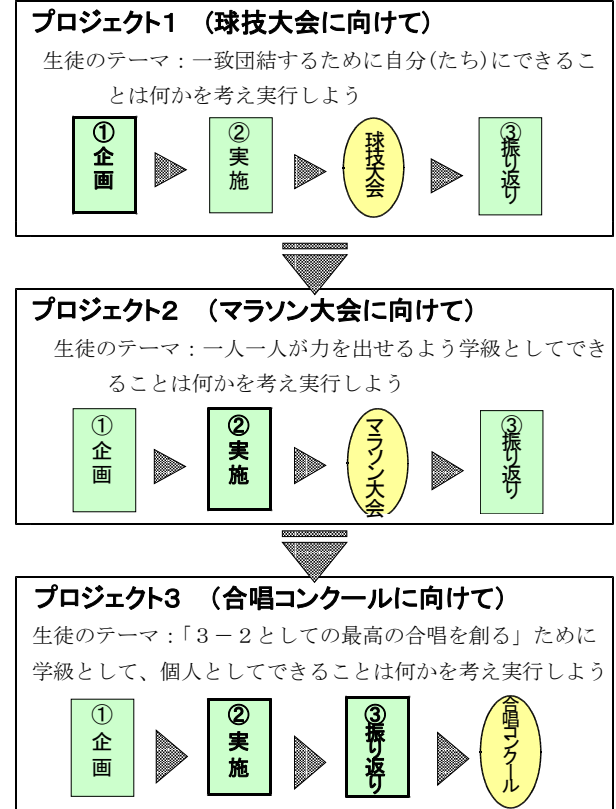
②実施段階では、企画をもとにグループ又は個

人で実施する。お互いの足りないところを補い合ったり、話し合いによって企画を修正したりする。

③振り返り段階では、友達の活動を認め合い、プロジェクトを通して分かったことやよかったことを話し合い、次の活動に生かすものをまとめる。

計画的に資質・能力を育てたいと考えたため、各プロジェクトごとに重点を置く段階を決める。

資料2 好きだから3-2プロジェクト1 2 3



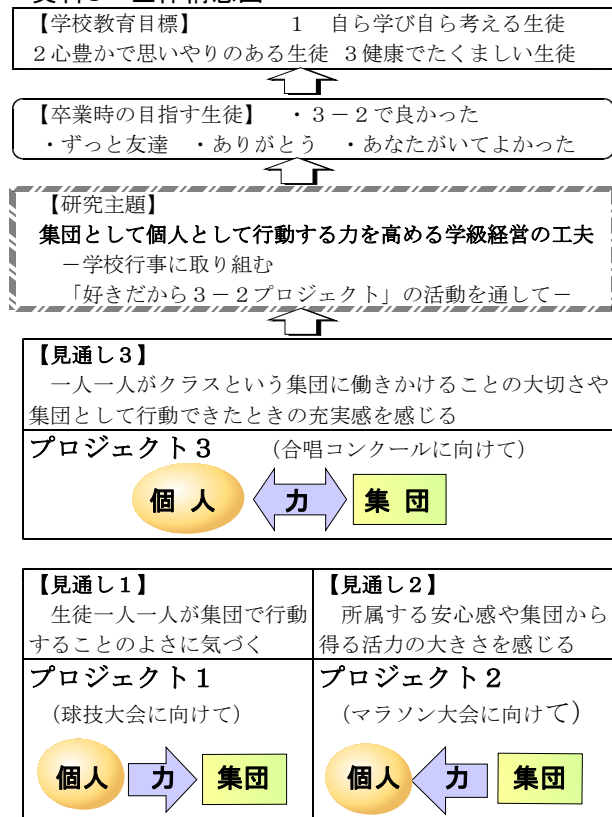
「好きだから3-2プロジェクト1」では、集団競技であるバレーボールの練習や大会に向けて、一人一人のもっている力を発揮するチャンスきっかけをつかむために、また、友達から行動の仕方を学ぶために、企画段階において役割分担をすることに重点を置く。

「好きだから3-2プロジェクト2」では、個人競技であるマラソンの練習や大会に向けて、集団のもつ温かさや同じ方向を向いたときの影響力の大きさを感ず、一人一人が安心感や所属感を感ずるために学級の約束を守って実施することに重点を置く。

「好きだから3-2プロジェクト3」では、クラス全員が心と歌声を合わせて創る合唱コンクールに向けて、生活の中の短い時間の使い方の工夫やプロジェクト1と2で学んだことを生かして実施することや一人一人の活動を認める振り返りに重点を置く。

「好きだから」という言葉は、4月の授業参観日の配布物に、入力ミスで「〇〇くん、好きだから」という言葉が入っていたため、参観していた保護者も含めて全員で大笑いをした学級最初の事件となった言葉である。その後、生徒たちからは「『好き』ってとてもいい言葉」「個性豊かなこのクラスの一人一人の結びつきを強くするのにぴったり」という感想が聞かれ、会話にも度々出てきた。担任としても、個人として、集団として行動する力を高める基礎的な人と人との関係性として大切にしていきたい。そのため、学級通信の名前や、学級の合い言葉としても使っている。

資料3 全体構想図



2 実践の概要及び結果と考察

検証は、学級全体及び抽出児A子の活動の様子、事前、事後のアンケートの比較、感想文や作成した資料の記述内容などをもとに行った。

抽出児A子は、立候補して初めて学級委員になった生徒である。「一度くらいは委員をやってみようかなと思いついて立候補した」と話していた。部活動やその他の活動でも入賞の経験は無く、特に目立った行動をする生徒ではなかった。

(1) 集団で行動することのよさに気づいたか。(見通し1)

ア 実施の概要

6月のバレーボールによる「球技大会」で学級

目標の「一致団結」を達成するために、「みんなで一緒にできること」「自分にできること」をテーマに何ができるか話し合い「好きだから3-2プロジェクト1」を企画、実施した。

「好きだから3-2プロジェクト1」では

- ① 企画段階(学級活動①)においては、
 - a 学級として必要な活動や準備を洗い出した。
 - b 自分の得意なことや友達のをよさを生かした役割分担とグループ編成をした。グループの人数は、相談したり仕事を分担したりすることができるように2人から6人とした。
 - c 個人の努力目標を明らかにし、掲示した。
- ② 実施段階においては、活動が円滑で効果的に行えるよう話し合いによる調整をした。また活動は、昼休み、体育の授業中、放課後などに実施した。
- ③ 振り返り段階(学級活動②)においては、クラスのために意欲的に取り組んだり、工夫して活動したりした級友やグループの名前を挙げて認め合い、どんな準備や行動がクラスのためになったのか考え、次の行事に生かすようにまとめた。

イ 結果と考察

①企画段階では、「みんなで一緒にできること」として、応援、昼休みの練習、試合のときの作戦、「自分にできること」として、技術を向上させるために繰り返し練習する、友達に教える、必要なものを作るなどの意見が出され、それをもとに役割分担とグループ編成をした。担任は、グループの行動が関連し合って「一致団結」に向かうよう、「気をつけること」を助言した。(資料4)

資料4「好きだから3-2プロジェクト1」のグループ

グループ名	人数	活動内容(予定)	気をつけること
応援団(推薦+希望者)	3	応援歌作成指導	覚えやすいもの。みんなが一緒に声を出したり踊れるようにする。指導の仕方も考える。選手や審判などでリーダーがいなくならないよう順番も考える。
	2	振り付け作成指導	
	4	当日の応援のリーダー	
計画し隊(学級委員)	6	練習時間や場所の決定 みんなに連絡 カレンダー作成	全員に呼びかける 委員会や部活動で用事のある人は、無理をしないよう気をつける。
教え隊(バレー部+経験者)	6	技術指導 ボール出し 試合中の司令塔	サーブ、レシーブが上手になるようなメニューを基本に考える。
掲示物作り隊(美術部+希望者)	6	目標の台紙作成 教室の掲示物の移動	貼るスペースも考える。 みんなの手形が入りきるようなレイアウトを考える。
動き隊(希望者)	5	各チームの応援 未完成の掲示物 や資料作成応援	できることを探して計画し隊に相談して活動する。
実行委員(体育委員)	4	西中ルール徹底 チーム分け	学年のルールや、指定された練習場所の確認をし、みんなに伝える。

学級活動を行ったその日の昼休みから「教え隊」の生徒が中心となり、必要な活動を考え、役割分担しながらの練習が始まった。自分の得意な分野で、しかも具体的な活動のイメージをもったため、短時間で実際の行動に移せたものとする。各グループの主な活動内容は、資料5のようであった。

資料5 各グループの主な活動内容

グループ名	人数	活動内容
応援団	9	踊りや替え歌作成 声を出すタイミングや合図の確認 友達に伝達するための練習 当日の応援のリード
計画し隊	6	給食時に昼休み練習の参加者と練習場所の確認 練習予定カレンダー作成、掲示 練習時の球出し、技術指導 試合中の指示
教え隊	6	フォームやフォーメーションなどバレーボールの基礎に関する資料作成 給食時に昼休みの練習メニュー確認 練習時の球出し、技術指導 試合中の指示
掲示物作り隊	6	クラス目標台紙、個人目標台紙作成 掲示物を移動し掲示場所を確保 資料の表紙絵作成
動き隊	5	応援団や計画し隊、教え隊の資料印刷、帳合い 掲示物台紙作成と色塗り ボールやコート準備
実行委員	4	ルール説明 チーム分け 審判 記録

担任は、意欲的な行動を他の生徒や教師、保護者にも理解してもらうため、練習の様子や各グループの活動の様子を朝の会で紹介したり、学級通信に載せたりした。その結果、多くの場面で声をかけてもらい、認めてもらえるようになった。

なお、球技大会の結果は、準優勝であった。

事後の調査の記述から、練習が始まった頃の様子と、大会後の感想の部分抜き出し、内容別に数の多い項目を比較した(資料6)。

資料6 事後の反省と感想(人数)

練習が始まった頃	大会後
・下手なクラス (11)	・クラスが一つになった(20)
・まとまりがない (6)	・団結力が増した (16)
・やる気がない (3)	・積極的に練習、試合(10)

振り返りの学級活動で、資料6のように変化した理由を尋ねたところ、「プロジェクト1がよかった」「応援が楽しかった」「男女が仲間として練習できた」「教えてもらって上手になった」などであった。必要な活動を考えて役割分担をしたり、クラスで練習方法を工夫したりしたことが、一人一人の意欲や技術を高めることにつながった。また、応援もリーダーの指示のもと、各自が精一杯出した声そろったため「一つになった、団結力が増した」という感想の記述になったと考える。

次に、分かったこととして以下の発言があった。

資料7 「プロジェクト1」で分かったこと

- ① 「自分で努力」する部分と「一緒にそろえる」部分がはっきりしていて動きやすかった
- ② 話合いで変えていくことが大切
- ③ 全員で一緒にすると気持ちいい

これらのほかにも集団を意識した発言があり、集団で行動するよさに気づいたと考える。

資料8 A子の感想より

初めのうち、体育の授業でのバレーはボロボロだった。みんなやる気がなく、ボールは取らないし、声もなかった。練習の計画表が配られて初めてみんなのやる気が見えてきた気がした。私は、毎日、お昼休みになると、みんなに「バレーにいこー」と誘った。みんなは、その誘いを、嫌がることなく積極的にバレーを始めた。そのときは本当にうれしかった。

抽出児A子は、「計画し隊」として、昼休みに積極的に練習参加を呼びかけている。その結果、変化が起こり「うれしかった」と書いている。また、友達と一緒に楽しそうに練習している姿が毎日のように見られ、友達と行動することのよさに気づいたと考える。

以上のことから、企画段階で必要な活動を考え、生徒の役割分担に重点を置いて「3-2好きだからプロジェクト1」を実施し、振り返ることは、生徒一人一人が集団で行動することのよさに気付くのに効果的であったと考える。

(2) 所属感や集団のもつ影響力の大きさを感ずることができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

「マラソン大会に」向けて集団の力を個人の活動に生かしていくために行う「好きだから3-2プロジェクト2」では、次のように取り組んだ。

- ① 企画段階において、個人の目標を達成したり、マラソン競技の嫌な部分を改善したりするために、集団としてできることは何か、そのために学級としてどうするかを話し合い、学級の約束を決めた。

- ② 実施段階において、学級の約束を思い出し、一人ではないことを感じながら走るようにした。
- ③ 振り返りにおいて、実施しているときの気持ちやどんな場面が元気づけられたかを話し合い、互いの努力を認め合う学級活動を行った。

イ 結果と考察

事前アンケート(資料9)の結果をもとに、「嫌

なところ」に対する対応策やクラスの約束を資料10のようにまとめ、練習時や大会本番に心がけたり実施したりした。なお、資料10の「結果」は、マラソン大会後に調査した、心がけたり実施したりしてきた状況や感想などである。

資料9 マラソン大会の事前アンケート集計結果

- マラソン大会は好きですか (人数)
 - ・好き(1) ・どちらとも言えない(10) ・嫌い(25)
- マラソン競技の嫌なところはどこですか
 - ・疲れる、苦しい(35) ・走るのが苦手(8) ・緊張する(6)
- マラソン競技の優れたところはどこですか
 - ・達成感がある(19) ・すっきりする(9)
 - 限界に挑戦できる(6) (以上数の多かった3項目)

資料10 「好きだから3-2プロジェクト2」と結果

- ①「疲れる・苦しい」「苦手」に対して
 - ・走るフォームを工夫(呼吸、腕の振り方等)、
 - ・疲れてきたら、頭の中で好きな曲を流す、楽しいことを考える。

結果：「楽になる気がした」と話していた 15人
- ②「緊張」をほぐすために、
 - ・3回ジャンプするやももをたたくなど、自分にあった方法を実施。

結果：「楽しかった」と話していた 17人
- ③「学級としてそろえること」
 - (「プロジェクト1」でわかったこと。資料7より)
 - ・友達を抜くときは声をかける
 - ・疲れているときは片手を挙げて合図する。

結果：声をかけた生徒18人 手を挙げた9人
声をかけられた23人 手を挙げてもらった13人
事後の感想に、「うれしかった」「仲間の大切さがよくわかった」という記述があった。

 - ・スタート、1km、2km地点で「一人で走っているのではない」と思う。合い言葉を思い出す。

結果：「約束の地点で頑張ろうと思った」32人

 - ・ゴール付近で一緒に応援をする。

結果：「応援の声が聞こえてかなりうれしかった」「力がわいた」「疲れが元気に変わった」36人
- ④「個人で努力すること」は
 - ・練習を毎日する、体調管理をする。

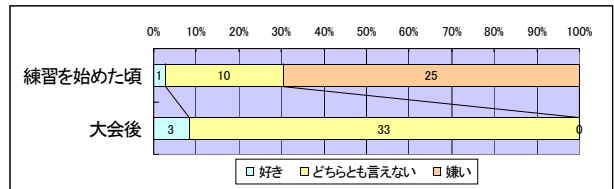
結果：毎日練習した27人、食べ物に気を配った17人

マラソン大会当日の競技は順調に行われ、男子の最後の走者、クラスのB君を待つのみとなった。ゴール付近で待っていたC君が「迎えに行こう」と叫び、20名以上の男女が、コースを逆走した。5分後、集団はひとかたまりになって戻ってきた。生徒達は、口々に「もう少しだ」「プロジェクトを思い出せ」「みんなが待ってるぞ」と声をかけていた、「そのときにいいクラスだなと思った」

と、複数の生徒が感想に書いた。ゴール直前で集団はB君から離れ、声援と拍手でB君の努力を讃えた。結果は総合優勝だった。

練習が始まった頃と、大会後のアンケートや感想を比較した(資料11)。

資料11 マラソン大会は好きですか(アンケート)



「好き」は1人から3人になっただけだが、「嫌い」は25人から0人になった。「マラソン競技は嫌だがみんなで取り組むマラソン大会は楽しい」というのが主な理由だった。

練習を始めた頃は「自分が応援されたらうれしい」「結局走るのは自分だから」など、「自分が」という言葉の記述が多く見られた。しかし大会後は「みんなの力が集まるとすごいと感じた」「励まして励まされてクラスの力が何倍にもなった」など、集団を意識した記述が多くなった。

振り返りの学級活動では「好きだから3-2プロジェクト2」で分かったことをまとめ(資料12)これからの行事にも生かしていくこととした。

資料12 「プロジェクト2」で分かったこと

- ① 団結力のすごさを感じた。
- ② アイデアを出し合うといろいろ乗り越えられる
- ③ 全員で一緒にすることに意味がある。一人が欠けてもダメだ。

資料13 A子の感想より抜粋

円じんを組み、負合いを入れ、たくさんの人から声をかけられてやる気がとてとわいてきた。走っているとき、友だちもこの道を走ったんだなと思うとクラスが自分になった気がした。ゴールのとき、たくさんの人が応援してくれて笑顔がこぼれてしまうくらい嬉しかった。男子のスタートのとき、クラスの男子がみんなやうしていることがとっても伝わってきた。声をかけてあげたり、負合いを入れてくれているうちに、クラスの仲間って、やっぱり大切なんだなと思った。終わってから、応援ありがとう！と何人もの人に言われて、スゴク嬉しかった。個人競技でもあんなマラソン？さんなんにも、クラスのカが大きいことに気づけて良かった。やっぱり2組は最高です！

教師の記入した下線部は、クラスを意識したりクラスの一員としての喜びを感じたりしたと思われる部分である。

抽出児A子は、大会後の感想に「練習が始まったときは、嫌で嫌でしょうがなかった。けれども、ともかくマラソン大会は楽しかった。こんなふうに思えたのは初めてだった。」と書いている。練習に取り組む姿や当日の活動の様子を記述した感想から、「3-2好きだからプロジェクト2」を実施したことでクラスを意識し、クラスの一員としての喜びを感じることができたと考える。また「個人競技でもあるマラソンでこんなにもクラスの力が大きいことに気づけて良かった」という記述からも、集団のもつ影響力の大きさを感じることができたと考える。

以上のことから、実施段階に重点を置いた「好きだから3-2プロジェクト2」で、クラスとしての約束や応援は、学級の一員としての自分を意識し、所属感や集団のもつ影響力の大きさを感じるのに効果的であったと考える。

(3) 一人一人がクラスという集団に働きかけることの大切さや集団として行動できたときの充実感を感じることができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

「合唱コンクール」に向けた「好きだから3-2プロジェクト3」において、次のように取り組んだ。

- ① 企画段階において、最終的に創りたい合唱のイメージが、クラス全員で同じものになるように、資料の準備や工夫をした。
- ② 実施段階において、朝の会や給食時など短い時間を有効に使い、一人一人が考えたことをクラスに向けて提案、実施、修正しながら行動した。
- ③ コンクール前日の振り返り段階（学級活動）において、友達の頑張りを認め合うために「みんなで頑張ってきたもの」を交流し合い、一言メッセージの交換をした。また「好きだから3-2プロジェクト3」の実施前と後で変わったことを班ごとにまとめて発表したりすることで、自信をもってコンクールに臨めるようにした。

イ 結果と考察

企画についての話題を出した翌日、「声の出し方」や「曲の解釈」などを調べてきた生徒が6人いた。朝の会でその取組を賞賛し、資料を参考に全員で練習をした。その中に、課題曲は7章からなる大曲の最終楽章であることも書かれていた。

そこで、調べてきたことがクラスのためになったと感じるように、また、曲が伝えようとしたメッセージを全員が感じとれるように全楽章を給食の時間に聴かせた。更に、曲に対する自分のイメージを、一人一人がはっきりとつたために、同じ曲のCDを数種類用意して聴かせ、自分のイメージに近いものを選ばせた。そして、その後の学級活動で、全員が目指すイメージをまとめた。また、自分たちだけの約束や歌詞の解釈を書き込んだ楽譜を作成し、練習時に活用した。

数日後、抽出児のA子が朝の会で全員にお願いをした。学級委員（球技大会のときの「計画し隊」）で相談して決めたものだという。その内容は①放課後の練習時間を確保するため掃除と帰りの会をできるだけ早く終わりにして欲しい、そのために②掃除の終了時刻を黒板に書くので意識して行動して欲しいということだった。具体的でわかりやすい提案であることを認め、実施した結果、練習時間を毎日10分増やすことができた。

練習では、指揮者と伴奏者が中心になって指示を出した。「計画し隊」が、練習場所と時間を一覧表にして掲示し、給食時に伝えた。また「掲示物作り隊」は模造紙に楽譜を拡大して描き、「動き隊」は練習場所までキーボードを運ぶなどの仕事をした。合唱コンクールのために新たにグループを作ることはしなかったが、一人一人がクラスに働きかけることの大切さを感じ、「好きだから3-2プロジェクト1」のグループが自然に声を掛け合って集まり、行動したと考える。

コンクール前日、「好きだから3-2プロジェクト3」を振り返る学級活動を行った。まず、それぞれの頑張りに対する一言メッセージを全員が自分以外の生徒36人分を用意し、一人一人に言葉をかけながら交換した。生徒たちは「こんな細かいことまで見てくれて感激」「自信が持てた」「涙が出るほどうれしかった」という感想を発表したり、「隠れたところの努力が見えて、自分も頑張らなくてはと思った」「もっと人の役に立ちたい」という感想をもったりした。目立たない活動や隠れた努力を見つけて伝えることで友達が喜んでくれたり、また、友達から認められることで自分の行動に自信がもて、行動する意欲が向上したと考える。

次に、「好きだから3-2プロジェクト3」の前と後で変わったことや分かったことを、班で話し合い、まとめたものを発表した。(資料14、15)

資料14「プロジェクト3」の前と後の変化

- 前は金賞を取るのか一番の目標かと思っていたけれど、そうじゃないとわかった。自分たちだけにしかできない、3-2の最高の歌を歌いたい。
- みんながみんなのために動くようになった。クラスのために何ができることはないか、毎日考えるようになった。
- みんな何倍も気持ちや行動が変化した。小さな力でも集まると大きな変化になることを実感した。
- 球技大会、マラソン大会を通じてみんなの気持ちが一つに団結した。それが続いている。

資料15 「プロジェクト3」で分かったこと

- ① 団結力をこれからも高めていこう。ずっと。
- ② 小さな個人の力が集まると大きな力になる。
- ③ みんなのためにみんなが動くことは、幸せ。

各班の発表に対して拍手が起こった。集団として目指す方向を話し合って決定し、同じ目標に向かって行動することのよさを感じたと考える。

授業後の感想に、「みんなも同じようなことを感じているんだな（11人）」「みんなのために何かをせずにはいられない気持ちになるのはすごいこと、幸せなこと、それはみんなのおかげ(10)」と、自分や友達の変化や成長に気づき、満足している様子が読み取れた。また、「全員の力が一つの目標に向かって動いた文化祭は絶対に成功させたい」「合唱をする意味が見えてきた」という記述もあり、集団として、個人として行動する価値を見だし、行動する力が高まってきたと考える。

資料16 抽出児A子の学級活動後の感想

みんな、考えてることが一緒だったことが嬉しかった！
 やっぱり、2組は、無理無理一つになろうなんて
 しなくても、一つになれるってみんなだね。
 全員からもらったメッセージも一生大切にしよう！
 今までやってきたことが無駄にはならなかった

抽出児A子は、「考えていることが一緒」「一つになれた」という記述から、所属感や集団で行動できたときの充実感を感じたと考える。「計画し隊」の活動など「今までやってきたこと」が認められ「無駄にはならなかった」とクラスに働きかけ行動するよさも感じていると考える。

以上のことから、実施と振り返りの段階に重点をおいた「好きだから3-2プロジェクト3」を

行うことにより一人一人がクラスという集団に働きかけることの大切さや集団として行動できたときの充実感を感じ、さらに集団として、個人として行動する力が高まってきたと考える。

合唱コンクールでは、金賞を取ることができた。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

「好きだから3-2プロジェクト1、2、3」を「実施して分かったこと」（資料7、12、15）を各プロジェクトの流れ①、②、③ごとに集め、プロジェクト1、2、3の順に並べ替え比較した。

資料17 「プロジェクトでわかったこと」のまとめ

① 企 画	1 「自分で努力」する部分と「一緒にそろえる部分」がはっきりしていて動きやすかった。 2 団結力のすごさを感じた。 3 団結力をこれからも高めていこう。ずっと。
② 実 施	1 話し合いで変えていくことが大切。 2 アイデアを出し合うと乗り越えられる。 3 小さな個人の力が集まると大きな力になる。
③ 観 測	1 全員で一緒にすると気持ちいい。 2 全員で一緒にすることに意味がある。 3 みんなのためにみんなが動くことは、幸せ。

①企画段階では「動きやすかった」という感想から「団結力のすごさを感じ」、さらに「高めていこう」という積極的な行動を促す表現に変わっている。②実施段階では、意見を「変えていく」「出し合う」「集まる」という表現から、生徒が出した意見の数が増えてきたことが伺える。③振り返りでは「気持ちいい」という感想から「意味がある」と価値を見だし「幸せ」だと感じている。「これからも、ずっと」や「みんなのためにみんなが動く」などの記述からも「好きだから3-2プロジェクト1、2、3」は集団と個人の間関係を意識させながら結びつきを強め、集団として個人として行動する力を高めるために効果的な活動であったと考える。

2 今後の課題

本研究は、もともと生徒の興味・関心の高い行事の特性を生かして、行動力を高めるように考えたものである。日常の生活においても、行動する価値を見だし、集団として、個人として行動する力を高めるための活動を継続して行う必要があると考える。

(担当指導主事 関口 満)